

1 母語でつながる

事例 1

3歳児 5月(在日3年2ヶ月)

「うん。かわいいでしょ！」
～うれしい気持ちを母語で伝えて 心のつながりを～

こんな時、 どうするの？

A児は、父・母・兄・本児の4人家族で、外国籍である。
日本で生まれ、家庭ではポルトガル語で会話をしている。

4月から入園したA児は、新しい環境に戸惑い、泣いて過ごすことが多かった。保育者は、物の名前や場所を伝える絵カードを準備してA児に示したが、A児は不安そうに保育者にしがみついていることが多かった。言葉が分からないことが不安要因になっている様子である。保育者は、A児となかなか信頼関係が築けないもどかしさを感じていた。

5月、クラスの友達が製作遊びを楽しんでいる中、A児はいつものように泣いて登園してきた。



こうしたよ！

A児は、友達が楽しそうに製作コーナーで遊んでいる様子を、保育者にしがみつきのながら見ていた。その姿を見て、「Aちゃん、(友達のところへ)見に行く？」と保育者がジェスチャーと共に声を掛けると、A児は小さく頷いた。



A児は保育者と一緒に製作コーナーへ行き、友達が遊んでいる様子をのぞき込んだ。保育者が「わあ。ハートだね！Aちゃんも作る？」と声を掛けたが、A児は無言のまま、じっと友達の様子を見つめていた。

しばらくすると、保育者の手を離し、さっと自分から椅子に座り、製作を始めた。A児は、好きな色の紙を何度もつかんでは散りばめて、ハートの形を作った。



そして、出来上がった時、A児が顔を上げたので、保育者が、「fofo（フォフォ）！かわいいね！」
「Bom（ボム）！いいね！」と、うれしい気持ちを母語で伝えた。

すると、A児は保育者に向かってニコッと笑い、とてもうれしそうな表情を見せた。保育者も笑顔で返した。

保育者の気持ちを母語で伝えたことで、A児は自分の気持ちを分かってもらえたと感じていました。互いの気持ちが通じ合い、心のつながりとなりました。



ここが大事！

気持ちを伝える母語を使うことで、信頼関係が生まれます

子供が「自分の気持ちを分かってもらえた」「うれしさに共感してもらえた」と感じるような、うれしくなる言葉や褒める言葉を母語で伝えることは、信頼関係を築くためにも有効です。

コラム 心を表す絵カードを活用しています

子供の気持ちを理解したり、保育者の思いを伝えたりするために絵カードを活用しています。イラストがあることで、言葉が分からなくても、伝えたいことが伝わりやすくなります。

外国籍等の子供を園で受け入れる際に、物や場所等を示すイラストを事前に準備することはよくありますが、コミュニケーションを取る際に活用できる【気持ちを表す絵カード】は、当該幼児との信頼関係を築いていくことにもつながる有効な手立てです。（31 ページ参照）



【声を掛けながら、提示する絵カード】